立命館大学 2022年度 第3回教学実践フォーラム
「ES制度の効果的な活用方法」
2022.12.9
（オンライン）

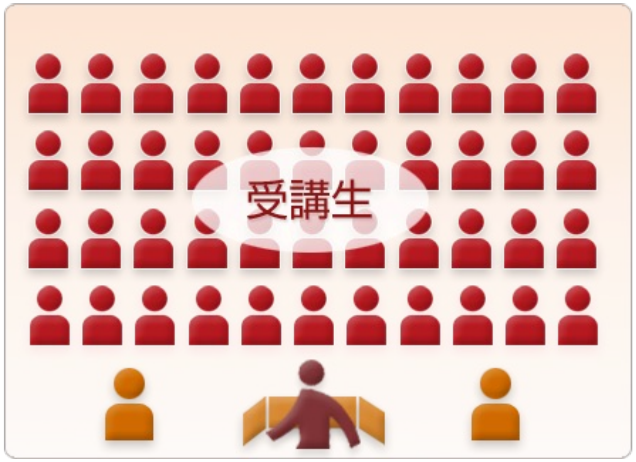
ES制度の趣旨およびES研修の概要について

鳥居 朋子

（立命館大学教育開発推進機構）

ES （Educational Supporter）

- 立命館大学の教育サポーター：授業において教員や学生のサポートをする学部学生
- 多様なピア・サポーターのひとつ
- 学生の質問対応や教材作成の補助等、教員と学生双方をサポートすることで、授業をスムーズに進め、より学習効果を生み出す役割
- 授業改善に向けたモニター的役割として貢献
- サポートを通じ、ES自身が、学問的専門性や幅広い専門性を涵養し、人間的・社会的成長を実現する機会に



立命館大学でのピア・サポート制度の展開

自律型人材を育成するためには、能動的な学びが不可欠

↓

ピア・サポート

多様な学生同士が学び合い互いに成長する仕組み

※教養教育立命館科目「ピア・サポート論」においてもES制度や趣旨について学習

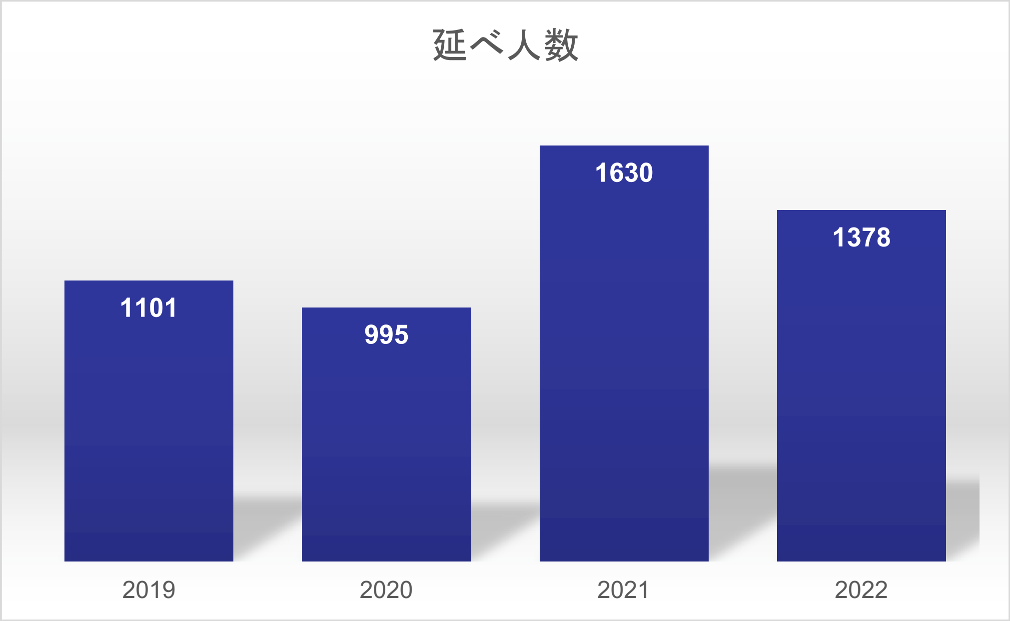
立命館大学のオリジン：清輝楼（模型）

- ✓ 働きながら学ぶ学生たちの姿
- ✓ 学びへの意欲
- ✓ 学び合いの原点

©学校法人立命館
朱雀キャンパス１階展示コーナー
（撮影：鳥居 朋子）

ESの活動人数

（2019～2022年）



※2022年度は暫定値

- 背景

・2021年度から本格的にハイブリッド型授業が始まり、教員の授業運営にかかわる負担が増えた？

・2021年度はTA／ES予算の追加措置を行ったことが増加につながった？

・2022年度に減っているのは、前年度に比べて対面授業が増えたから？

教員がハイブリッド型の授業形態に慣れたから？

制度としてのESの支援機能と主な業務

・正課授業において教員と学生をつなぎ、受講生をより深い学びに導く

・単なるアルバイト業務ではなく、学生の学びのスタイルを確立させるとともに、ES の成長を目的とした教育活動の一環

支援機能	業務範囲	主な業務内容
授業サポート	授業内	・授業内・授業後の質問対応 ・実験、実習の基本動作の例示 ・実習道具や実験器具等の整理 ・教員の授業進行や教材作成に対する助言 ・その他の、授業内の活動
ラーニングファシリテーション	授業内	・授業内のグループワークや実験に対する助言 ・双方向型授業における受講者側のリード ・プレゼンテーションの例示
学習サポート	授業外	・レポート作成や予習・復習等の授業外学習の支援 ・プレゼンテーション準備等の授業外学習の支援 ・その他の、授業外の学習支援を中心とした活動 ・その他の、授業準備を支援する活動（例：教員の指示によるレジュメ作成、教員の指示によるデジタル教材の作成）

「2022年度 教育サポーター(ES)要項 ～ES 対象～」に基づき作成。

コロナ禍でのES等の支援にかかわるニーズ

★授業で上手くいった取り組みなど

・TAの活用。授業のリアル配信の際、講義の内容に集中することができ、講師としてたいへん有難かった。
・ESの活用

★学内FDで取り上げて欲しいと思うテーマやトピック

・TA・ES制度を利用したハイブリッド授業例
・機器操作など、授業運営をサポートする院生のスキルアップ

2021 年度「授業支援に関する教員対象アンケート」の自由記述（一部）

ES研修の目的・概要

７つの研修で構成

2022年度秋学期 ES研修のご案内

	基本研修	ファシリテーションスキル研修	ICT研修	機器操作体験会	授業における感染防止対策研修	はじめてのライブ配信型授業 －Zoom編－	はじめてのオンデマンド型授業 －Panopto編－
研修概要	ES制度の概要、役割り、心構えの理解 -ピアサポーター・ESとは -本学の学生の特徴 -ESの機能, 活動内容 -業務規程・留意点等	①的確なファシリテーションの留意点を理解し、受講生の個人ワークやグループワークのファシリテーション等に活かすことができる。 ②ES活動に対する不安を払拭し、活動の具体的なイメージを持つことで取組意欲を高める。	授業サポートにおいて必要となるICT機器・システム・ツールを体系的に理解するとともに、発生頻度の高いシーン（受講生からの質問対応やグループワーク、授業準備（教室機器操作、授業進行補助等）において、ツール・システムを適切に操作することができるようになる。	「ICT研修」を受講しても、なお、教室機器の操作等に不安がある場合は、実際の教室で機器操作を体験したり、ICTツールに関する質問・相談をすることができます。	3月末に実施された、教員を対象とした研修会の動画を視聴できます。対面授業を実施する上で必要となる、マスク着用の呼び掛けやフェイスシールドの配布場所、座席配置、そして体調不良者が発生した場合の対応などについて説明されています。授業支援もこれに準じて対応して下さい。	１月に実施された、教員を対象とした研修会の動画を視聴できます。はじめてライブ配信型授業を予定している教員を対象に、Zoomの具体的な操作と活用事例が説明されています。また、教室に設置されているカメラ機器との接続についての説明もあります。	１月に実施された、教員を対象とした研修会の動画を視聴できます。はじめてVOD配信を予定している教員を対象に、動画編集・配信プラットフォームである「Panopto」の具体的な操作と活用事例が説明されています。
受講形態	VOD視聴（約15分）	ライブ配信（約1時間）	VOD視聴（約1時間）	対面	VOD視聴（約45分）	VOD視聴（約30分）	VOD視聴（約30分）
必須/任意	必須	必須	必須(*1)	任意	任意	任意	任意
受講手当(*3)	無し	1,000円	1,000円	無し	750円	500円	500円
受講時期(視聴可能期間)(*4)	9/26～11/30	9/27, 10/5, 10/13 5限(*2)	9/26～11/30	10/3 @BKC 10/4 @OIC 10/6 @KIC	9/26～11/30	9/26～11/30	9/26～11/30
修了要件(*5)	VOD視聴 ＋ 受講後ｱﾝｹｰﾄ提出	研修参加 ＋ 受講後ｱﾝｹｰﾄ提出	VOD視聴 ＋ 受講後ｱﾝｹｰﾄ提出	無し	VOD視聴 ＋ 受講後ｱﾝｹｰﾄ提出	VOD視聴 ＋ 受講後ｱﾝｹｰﾄ提出	VOD視聴 ＋ 受講後ｱﾝｹｰﾄ提出
受講方法	視聴する(Click!) 9/26公開予定	参加申込 9/1以降OPEN	視聴する(Click!) 9/26公開予定	参加申込(Click!) 9/1以降OPEN	視聴する(Click!) 9/26公開予定	視聴する(Click!) 9/26公開予定	視聴する(Click!) 9/26公開予定
受講後アンケート	受講後アンケート入口(10/1 OPEN)	研修当日にご案内します	受講後アンケート入口(10/1 OPEN)		受講後アンケート入口(10/1 OPEN)	受講後アンケート入口(10/1 OPEN)	受講後アンケート入口(10/1 OPEN)

*1　担当する業務において、manaba+R, Zoom, Panoptoのいずれのシステムも操作する機会のないESは受講不要です。
*2　過去に受講した方も再度受講して下さい。所属キャンパスに関わらずいずれの日程でも参加可能です。
*3　受講した研修の合計額が1月以降の給与に加算されて支給されます。
　　VOD研修の内容は2021年度に配信されたものと重複する部分がありますが、過去にこれらの研修を受講した場合も再度受講することは可能です。その場合、受講手当も支払われます。
*4　業務の都合上9/26よりも前に視聴する必要がある場合は、下記までお問合せ下さい。
*5　ﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝｽｷﾙ研修については、参加の実績と受講後アンケート提出の両方を以て手当が支給されます。それ以外については受講後アンケートの提出を以て手当が支給されます。
　　VOD視聴による研修については、動画を視聴していても受講後アンケートが提出されていない場合は受講完了と見なされません。ご注意ください。

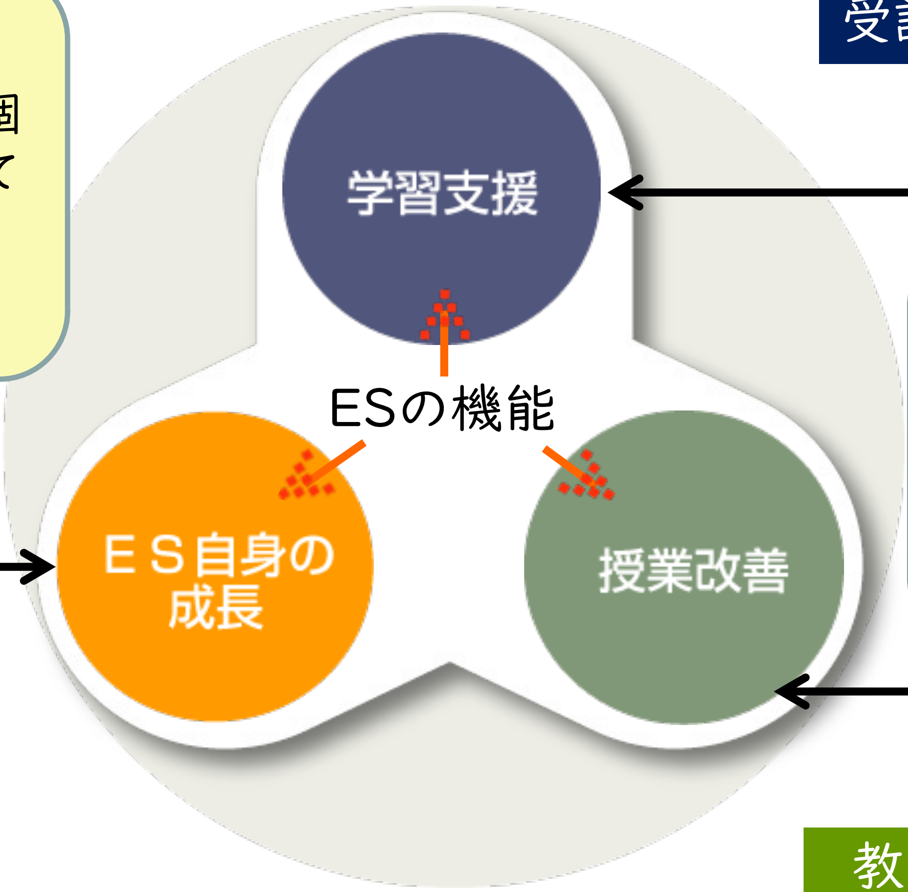
※データや情報は2022年9月時点

ESの3つの機能

支援される側の学生の喜びと成長

受講生の視点

★学び成長する個人への視点として重要。



ESは授業改善に関する意見を担当教員に伝える。FDの視点からも重要。

ESの視点

支援する側の学生の喜びと成長

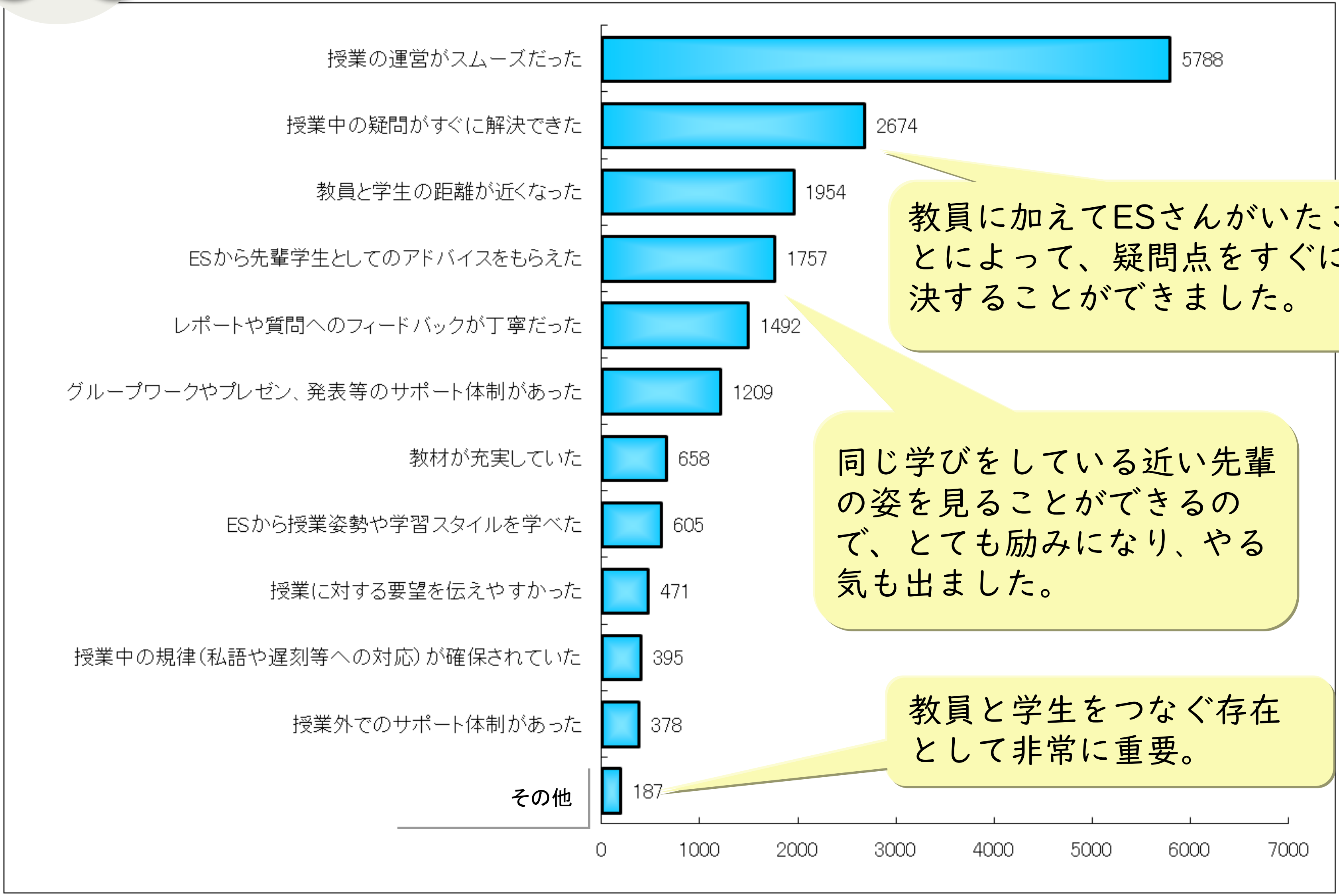
教員の視点

教職員の喜びと業務の改善

教育効果：学習支援

受講生の視点

ESの活動により授業が良くなった点



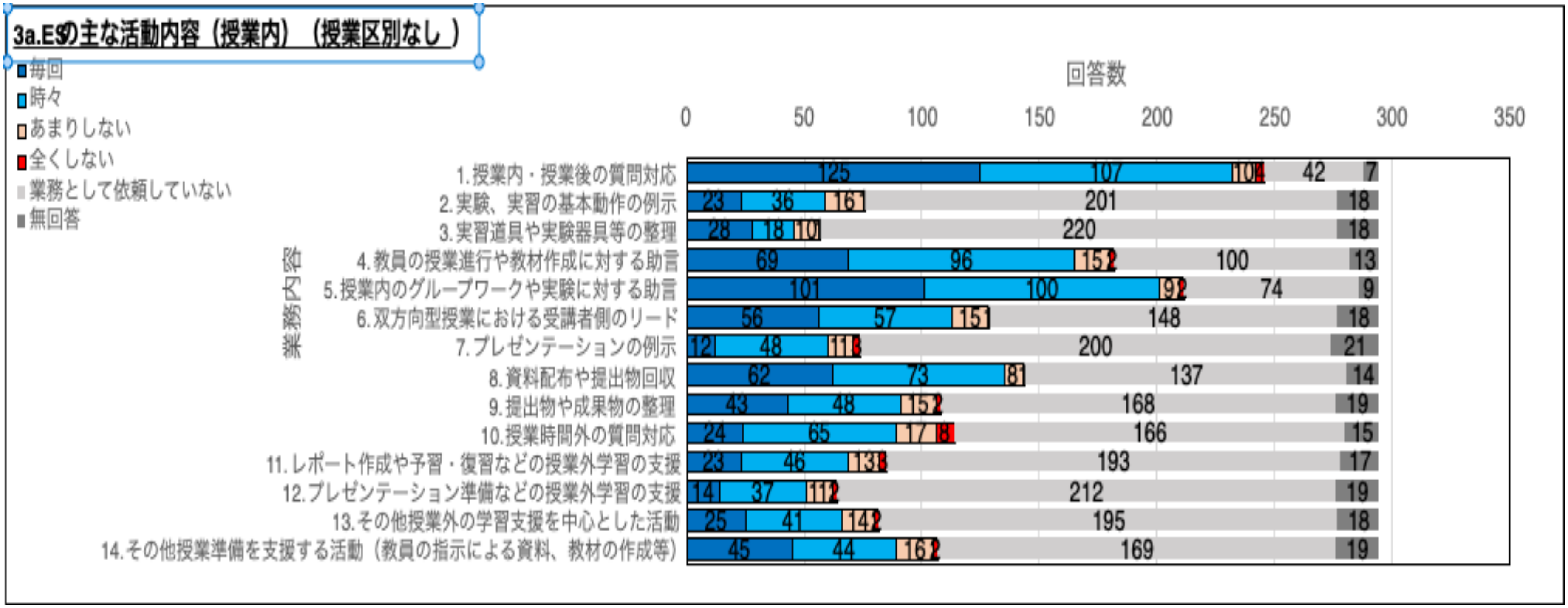
教員に加えてESさんがいたことによって、疑問点をすぐに解決することができました。

同じ学びをしている近い先輩の姿を見ることができるので、とても励みになり、やる気も出ました。

教員と学生をつなぐ存在として非常に重要。

2011年度 ES導入授業の受講生アンケート（前期・後期合計、事務局編集）より作成

ESの主な活動内容（授業内）



「2021年度春 ES活用報告書（教員回答）」（事務局集約）をもとに作成。

・授業の特性に応じて多様

・特に多いのは、授業内・授業後の質問対応、授業内のグループワークや実験に対する助言、教員の授業進行や教材作成に対する助言等

・Zoomでの同時配信の準備・片付け、授業内のZoom上のトラブル対応、チャットにおける受講生の質疑応答の整理、入室管理、ブレイクアウトルームの作成やグループワークの助言等「2021年度春 ES業務報告書」（事務局集約）より抜粋

教育効果：授業改善

教員の視点

ESが授業改善に貢献した具体例

・グループワークや学生間でディスカッションを行う際、欠席者がいるチームに自分から入っていき、ディスカッションを活性化してくれた。
・いつも元気で明るく、授業における自分の立ち位置を工夫しながら業務に取り組むことができるため、授業者との協働による効果が高かった
・★ハイブリッド授業においてのESの役割は大きい。人数が多い場合は、学生のマイクオフ、教員側のZoomの操作の確認等。気にかける部分が多い、それらをカバーしてくれる役割として、本当に役にたったと思う。トラブルが起きずに90分の授業をスムーズに運ぶためには非常に重要な役割。
・★ライブによるオンライン授業であったため、ESと進め方やオンラインツールの使い方が学生等にとって難しくないか、困難などがないか等を相談し、学生目線での的確な助言を得られ、スムーズな進行が可能となった。
・ラーニングサポート自体が、ES自身の学びの成長につながっていることを実感している。
・ES自身の成長を目の当たりにできたことは教員として誇らしかった。

「2021年度春 ES活用報告書（教員回答）」（事務局集約）より抜粋。

円滑な双方向型授業の実現や授業改善に効果を発揮

教育効果：ES自身の成長

ESの視点

ES活動を通じて獲得した力量（上位5つ）

相手の意見を丁寧に聴く力	他人に働きかけ巻き込む力	自分の意見をわかりやすく伝える力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	物事に進んで取り組む力

・とても自己の成長にも繋がる素晴らしい制度であると実感しました。
・ES制度について、今までは授業サポートという形で先輩が参加しているという曖昧な印象でしたが、実際に経験し、下級生と話し合うことで、新たな気付きを得られたように感じます。
・とても良い経験になりました。私自身もこの制度を活用していきたいし、周りの方にもお勧めしたいです。
・ESの間の業務上の交流やお互いの学習を支援するような機会があればいいなと思います。

※複数回答有　2021年度春 ES業務報告書（事務局集約）より抜粋

支援する学生もES制度の有効性や自らの成長を実感

フォーラムの趣旨と目的

・コロナ禍の影響が長期化するなか、個々の授業ではどのようにES制度が活用され、どのような効果を生み出しているのか
・受講生と同じく、学び成長するES個人への視点をたいせつにし、ES自身の成長という機能に注目
・今後のES制度の効果的な活用や、教員とESのより良い連携のあり方について考えを深める

【事例報告】
①立命館大学文学部：西岡亜紀教授
②立命館大学共通教育推進機構：山口洋典教授

本日のプログラム

・15：30～15：45　教育開発推進機構：鳥居朋子
ES制度の趣旨およびES研修の概要について

・15：45～16：05　文学部：西岡亜紀教授
学部生の多様な〈個性〉を活かす～ESの人選と運用のポイント～

・16：05～16：25　共通教育推進機構：山口洋典教授
ESを通じたモデルとライバルの関係構築～業務と学習のあいだで

・16：25～16：55　全体での質疑応答

・16：55～17：00　閉会挨拶

★ご清聴ありがとうございました。活発な質疑応答や議論を期待しております★